

世界のオレンジ市場

FreshPlaza 2023年4月28日

世界のオレンジ貿易は現在、様々な市場で様々な課題に直面している。オランダの輸入業者らは北ヨーロッパの寒さが柑橘類の販売に有利かもしれないと考えている。しかし、ベルギーでのオレンジ需要の低迷もまた、寒い天候のためだとされている。一方、シチリアのオレンジ栽培は悪天候の影響を大きく受けており、スペインのオレンジの輸出は3シーズン連続で減少した。

取引業者らは、エジプト産が市場からなくなり、南アフリカ産の早生のオレンジが入荷する5月中旬になると、オレンジの販売見通しが改善すると予想している。中国では、穏やかな冬のおかげで柑橘類の量と品質が良好だが、晩生オレンジ品種の収穫は1か月遅れている。他方、中国国内の柑橘類の価格は昨年と比べて大幅に下落し、期待外れであった。

北米のオレンジ産業はインフレと需要の減少に苦戦しており、フロリダ州の生産量はカンキツグリーンング病とハリケーンイアンの影響を大きく受けている。オーストラリアでは、オレンジの出荷量は前年比6%回復して50万1,072トンに達したが、出荷額は4%減の4億2,070万豪ドルとなった。一方、一部のオーストラリアの柑橘類輸出業者らは、2022年後半にインドの関税が半分に引き下げられたのを受けて、新たなチャンスを利用しようとしている。



オランダ：寒さが売り上げを押し上げる

オランダのある輸入業者は、「スペインとモロッコの柑橘類の出荷シーズンが早く終了したため、海外産のシーズンの順調なスタートが期待される。その結果、(途中で積み替えをしない輸出国から輸入国への)直送も増えている」と報告している。最新の予測によると、南アフリカではバレンシア種5,070万箱とネーブル種2,520万箱の出荷が見込まれている。この業者は、「果実のサイズは、ほとんどが小玉だった昨年よりも全体としてよいようだ。また、北西ヨーロッパの寒さは柑橘類の販売に有利かもしれない。一方で、人々がカフェテラスにオレンジジュースを飲みに行くような天候も必要だ」と述べた。

ベルギー：供給は良好だが需要はやや不足

柑橘類の出荷シーズンは南ヨーロッパから海外産地への移行期にある。ベルギーのある取引業者は、「今のところ、供給はまだ比較的良好だ。スペイン産のオレンジは変わりやすい天候のために苦戦しているが、南アフリカ産は有望なようだ。現時点で、価格はこの時期としては素晴らしい水準にある。需要については改善の余地があるが、それは主に寒い天候のためだ。復活祭(今年は4月9日)の前後は常に大きな需要があるが、今は少し落ち着いており、夏に向かえば人々は再びオレンジジュースのグラスに手を伸ばすだろう」と語った。

ドイツ：順調なシーズンを予想

ドイツ市場へのオレンジの供給はいまだ順調である。スペイン産のネーブル種は生食用オレンジの中で最も多く、少量のトルコ産とエジプト産のネーブル種がところどころでこれを補完している。果汁用では、スペイン産のサルスティアーナ種とエジプト産のバレンシアレイト種が特に多く、前者の価格は昨年水準を大幅に上回っている。

ブラッドオレンジ(果肉が赤い)では、まだイタリア産のモロ種とタロッコ種がある。タロッコ種の価格はわずかに上昇しているが、モロ種の価格はわずかに下がっている。スペイン産のサングイネッコ種もあり、価格の面ではイタリアの品種よりも安い。

エジプト産の輸入品はまだ5月末まで入手できると輸入業者らは予想している。彼らは2月中旬に始まってこれまでのところうまくいっているシーズンを振り返り、「終わりに近づいても、品質は満足のいくものだ」と言う。価格だけが非常に不安定であるが、全体的には昨年水準を上回っている。ある輸入業者は、「エジプト産のバレンシア種はまだドイツで取引が拡大していることがわかる。対照的に、エジプト産の生食用オレンジは限定的だ」と述べた。

イタリア：悪天候がシチリアでの栽培に深刻な影響

イタリアのオレンジ生産の重要な担い手であるシチリア島は、昨年の非常に暑い春、長くて厳しい夏、秋と初冬の特別な暖かさ、さらに年が明けた2023年2月のハリケーンなど、多くの困難に直面してきた。皮肉なことについて最近終わった復活祭(今年は4月9日)は、クリスマスよりもはるかに寒かった。

シチリア産オレンジの出荷シーズンは、今後数日で終了すると見なせるが、晩生品種のブロンドオレンジ(果肉の黄色いバレンシア種等)はまだ一定の量があり、島のあちこちに点在する産地から出荷され、5月中に終了する。

ブラッドオレンジ(果肉の赤いタロッコ種等)に関しては、今年の出荷シーズンは、果実の着色に必要な低温時間が不足したため収穫の開始が1か月以上大幅に遅れるなど、まったく満足のいくものではなかった。最後にはさらに悪化し、2月初旬の悪天候と同時に早期に終了した。2月8日から9日に襲ったハリケーンにより、完全には破壊されなかったオレンジの木も大きな被害を被った。夏から秋にかけての高温のためにサイズが標準以下になりすでに減収していた作柄は、最後の一撃を受けた。生産者価格が非常に高かったため、海外の一部のバイヤーはこの品目を価格表から削除した。

スペイン：スペイン産の輸出が3シーズン連続で減少

スペイン産柑橘類の出荷シーズンはすでに最終段階に入っている。出荷量は2021-22年度と比べて32%減少(-60万8千トン)した。生産者に支払われる価格は、多くの場合過去10年間で最高である。ネーブルオレンジの産地価格は現在0.40ユーロ/kgに近く、シーズンの初めから2倍になり、前年より164%、平均より47%高くなっている。梱包施設では、価格は1.00ユーロ/kgに近く(ネーブルレイトなどの一部の品種はそれを超えている)、2022年のこの時期より94%高く、平均より54%高くなっている。

産地でのそのような高い価格では、取引業者が他の産地、特にエジプト、ギリシャ、モロッコのオレンジと競争しなければならない場合、適切な販売価格を維持しつつ、利益を上げることは困難である。

アンダルシア州では今年、干ばつのためにオレンジの収穫量が非常に少なく、昨年は7月末まで出荷していた同州のセビリア県とコルドバ県ではすでに収穫を終えている。バレンシア州とムルシア州では最初のバレンシア種のオレンジが収穫されている。取引業者は、エジプト産が市場から無くなる5月中旬から、オレンジの販売見通しが改善すると予想している。南アフリカ産早生オレンジの最初のコンテナは6月上旬に入る見込みだが、6月下旬まではこの産地からの安定した供給は見込めない。

2022年9月から2023年1月31日までの合計数値を見ると、スペイン産オレンジの輸出は量的には3シーズン連続で減少しているが、金額では減少せず平均を上回って(+2%)いる。輸出量は、2023年1月末までの9月を除くすべての月で各月の平均値を下回った。一方、単位重量当たりの輸出単価は、昨シーズンと比

較して12%、過去5シーズンの平均と比較して16.5%上昇した。これは近年で最高の単価である。輸出量の減少は、様々な輸出先で見られるものの、過去の平均と比較してEU諸国(-12%)がその他の国(-10%)よりも減少率がわずかに高い。一方、スペインによるオレンジの輸入は、昨シーズンと比較して5.6%、過去5シーズンの平均に対して10.5%減少した。

エジプト：輸出が増加

エジプトでは、柑橘類の出荷シーズンが終わりに向かっているが、晩生のバレンシア種は8月末まで出荷される。量は豊富で、昨年より30~40%多い。エジプトの出荷業者は現地通貨の切り下げにより有利な為替レートの恩恵を受けており、価格は昨シーズンよりも低くなっている。

オレンジは、エジプトの柑橘類シーズンの成功に貢献した。同国は、ネーブルオレンジ等の様々な柑橘類品種を(今シーズン既に)150万トン輸出しており、これは昨年と同時期より10~15%多い。業界筋によると、晩生のバレンシアオレンジを含めると今年の輸出量は200万トンを超えると予測される。

エジプト産バレンシアオレンジの需要は、ロシアをはじめとする東ヨーロッパ諸国や西ヨーロッパ、南ヨーロッパ諸国、特にスウェーデン、スペイン、イタリア、ギリシャ等で大きくなっている。今シーズン早い時期のネーブルオレンジの需要は主にバングラデシュ、インド、サウジアラビア、ヨルダン、ウルクアイ、及びラマダン期間直前のイスラム諸国からであった。それに続いて、ブラジルと、特にスペインの出荷量が少ないためにヨーロッパ諸国からの強い需要があった。

南アフリカ：高コストへの懸念から輸出が減少か

2023年の予測輸出量は、ネーブル種が2,500万箱弱(15kg/箱)であり、バレンシア種は5,400万箱(同)を少し下回っている。

南アフリカのオレンジの輸出は、主にロシア連邦へのネーブル種の出荷が始まっており、中東にはまだほとんど出ておらず、米国には全く出ていない(昨年はこの時点で米国へのオレンジの輸出が始まっていた)。

上記の数字には、(南アフリカ経由で輸出される)ジンバブエ産、エスワティニ産、モザンビーク産、及び出荷が増えているボツワナ産のオレンジが含まれている。バレンシア種の輸出は第18週(5月初旬)頃に始まり、その後第22週(5月末)からすぐにピークに達する。最後のバレンシア種はおそらく第42~43週(10月後半)までに出荷されると見られる。西ケープ州の複数の生産者は、年間を通じてバレンシア種を収穫し、国内市場及び少量をインド洋の島々やアフリカ諸国へ出荷している。

南アフリカの大統領は、オレンジに対するEUの新しい低温処理について言及する頻度が高まっている。同大統領は数週間前のベルギー国王の訪問時と同様に、今週南アフリカを訪問したフィンランド大統領との会談の中でそれを取り上げ、さらに「我々は南アフリカの農産物、直近では我々の柑橘類、に対するEUの保護主義的な行為に失望している。我が国は現在、世界第2位の柑橘類輸出国であり、EUによる最近の決定は不公平である」とツイートした。

国内市場では、ネーブル種の入荷量がやや少なく、オレンジの価格はわずかに上昇して4.51ランド(約33円)/kgとなった。市場関係者らは、高いコストのために生産者らが輸出を減らすと、国内市場のオレンジの入荷量が圧倒的な水準に達する可能性があるという懸念を表明している。

中国：晩生柑橘類の遅れ

今年、中国の晩生オレンジ品種賓川^{ピンチュアンフーワン}蝸柑(賓川蝸柑)の収穫は1か月遅れている。冬が比較的穏やかだったので、柑橘類の量と品質は良好である。しかし、柑橘類の国内価格は期待外れで、昨年よりもかなり低い。4月の中国の清明節の前は、市場価格が高かったが、それ以降下がりは始めた。

今年3月にイラン産の柑橘類が初めて空路で上海に到着した。一方、ベトナムでは柑橘類にまつわる事件があった。そこでは、その品質と手頃な価格で知られる中国温州産の柑橘類が、オーストラリア産柑橘類としてかなり高い価格で販売されていた。ベトナムの消費者は、果実の品質を高く評価していたため、この原産地偽装に気づいていなかった。中国からベトナムへの柑橘類の輸出は年々増加している。

南アフリカから中国への今シーズンの柑橘類輸出は困難であり、輸出量が大幅に減少すると予想される。課題は、高い投入資材価格、輸送コスト、及び積み出し港におけるストライキ等である。南アフリカは中国向けオレンジの大輸出国の一つであり、輸出シーズンは4月に始まる。最後に、エジプトは中国への輸出に関して総じて良好なシーズンを経験し、過去2シーズンと比較して大幅に改善した。エジプト産オレンジは果汁用に使用されることが多く、昨年末から中国の外食産業が完全に再開されたため、需要は強く安定している。

北米：インフレが需要を鈍化させる

北米では、カリフォルニア州とフロリダ州がオレンジの主要産地である。フロリダ州では、カンキツグリーンング病(HLB)により、引き続き大きな損失を被っている。さらに、オレンジの果樹園は昨年秋のハリケーンイアンにより大きな被害を受けた。米国農務省の最新の数字によると、同州の2022-23年度のオレンジ出荷量は、昨シーズンの4,120万箱から1,610万箱に減少すると予想されている。

カリフォルニア州のオレンジ出荷量は、昨年の4,040万箱から4,610万箱に増加すると予測されているが、需要の減少が出荷量の増加に影を落としている。オレンジの需要はインフレの影響を大きく受け、供給が需要を上回る状況である。消費者はより価格に敏感になり、購入する品物についてより選択的になっている。

国産オレンジはあと数か月間出荷される。需要が鈍化しているため、米国産の供給は通常よりも長く続き、一方輸入シーズンは5月下旬に始まる。米国は主に南アフリカ、チリ、ペルー、ウルグアイ、アルゼンチンから柑橘類を輸入している。南半球の出荷シーズンは通常、5月から11月中旬頃までである。

オーストラリア：出荷量は6%回復するも出荷額は減少

最新のデータによると、2022年6月までの1年間のオレンジの出荷量は、不作であった前年から6%回復し、50万1,072トンに達した。出荷量の増加にもかかわらず、出荷額は4%減の4億2,070万豪ドルとなったが、オレンジは果実の中で4番目に出荷額の多い品目となった。過去5年間で、オレンジの出荷額は8,700万豪ドル増加した。輸出に関しては、金額、数量とも減少し、輸出額は9%減の2億6,020万豪ドル、輸出量は7%減の16万1,052トンであった。(1豪ドル=約90円)

オーストラリア産オレンジの国別で最大の市場は日本であり、他のほとんどの市場の輸入は2021年に比べて減少したが、日本はわずかに増加した。品種に関しては、ネーブル種が出荷量の85%を占め、バレンシア種が12%、その他が3%を占めている。

同会計年度には、1万1,394トンのオレンジが輸入され、その大部分は米国産であった。消費面では、オーストラリアの全世帯の62%がオレンジを購入し、買い物1回当たりの平均購入量は1.40kgであった。オーストラリアはまた、643キロリットルの非濃縮オレンジ果汁を輸入し、5,101キロリットルを輸出した。

一方、インドに関心のあるオーストラリアの一部の柑橘類輸出業者は、2022年後半にインドへの関税が半分に引き下げられたのを受けて、2023年シーズンに新たな機会を利用しようとしている。この協定により、オーストラリアの柑橘類の輸出業者は、関税割当制度の下でオレンジ(及びマンダリン)をインドに輸出できるようになる。この制度では、現在の30%の関税は15%に引き下げられ、この低い税率は毎年最初の1万3,700トンに適用される。